

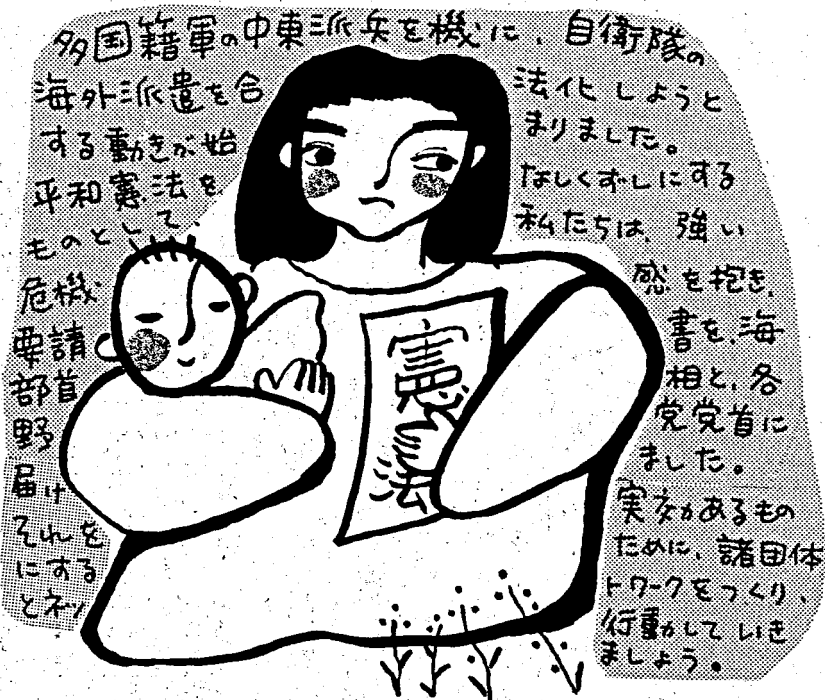


今月の編集は <あごら新宿> 155号 400円

中東への自衛隊派遣を許さないために あなたも行動を!!

中東貢献策ならぬ 中東解決策を……………2
座談会／自衛隊の派兵はゆるさない……………3
緊急アピール／あなたも行動を！……………8

●「中東貢献策」に対し、女たちで行動しませんか 要請書 あごら ●女は戦争への道をゆるさない世田谷集会でのアピール ●要請書 草の実会 ●申し入れ書 戦争への道を許さない女たちの連絡会 ●要請 日本婦人会議 ●すべての婦人の力をあつめて【自衛隊の海外派兵】に反対しましょう 日本民主婦人同盟 東京都本部 ●憲法をふまえて、あくまで平和的対処を——中東問題に関する要請 婦人民主クラブ



中東解決策ならぬ中東貢献策を

一九九〇年八月の中東問題を契機に、「待ってました」とばかりに、自衛隊派兵が浮上した。さすがに「憲法改正」までは叫ばないが、実質的な憲法改悪につながる動きに、各地の女たちが一斉に反対の声をあげ始めた。しかしマスメディアはほとんどその動きを伝えない。アマコスト駐日米国大使が、各社の首脳を招いて、「米国寄りの報道を」要請したと、確かな筋から聞いた。派兵は正義、の信念があるのなら、情報を公開し、言論の自由を認めるのが王道だろう。国会を解散して国民に信を問うという気概を示してほしい。

緊急特集として、この号には各女性グループのアピール、緊急集会での発言等を掲載した。マスメディアが沈黙する今こそミニコミが、の心意気である。憲法第九条は、アジア二千三百万の血の上に築かれた。九条を死守することは、アジアの人びとへの、日本人一人ひとりの責務と信じる。「中東貢献策」という言葉が定着しかけているが、米国をはじめとする多国籍派兵諸国家は「自らの利権に貢献する」ために派兵したのであり、自決を求める中東諸国にとっては「貢献」どころか「迷惑」であろう。求められているのは中東問題「解決策」である。紛争開始以来、湾岸諸国の一部には巨利が舞い込み、出稼ぎに頼らなければならぬアジア諸国はじめ、世界各国の庶民は、経済的痛撃を受けている。紛争が一日でも長びけば長びくほど、利権を得るものと影響に泣く者の格差は拡大するばかりである。粉骨碎身、「解決」に汗を流す日本の姿を示してこそ、国際社会の一員としての責務を果たすこととなる。国会および国連での「解決策」を要求して、へあこらVは署名運動を始めた。十月七日、渋谷ハチ公前でのマラソン演説会に参加した女性グループは、十月十九日午後六時、衆議・議員面会所に集合、院全野党と海部首相に署名を添えた請願書を提出する。紛争が解決するまで請願・陳情を繰り返すほか、一人ひとりの議員に、電話で、手紙で訴えていく。座して看過することは、結果的にはアジアはじめ世界の庶民を苦しめ、憲法改悪に加担することにはかならない。

(斎藤千代)

自衛隊の派兵はゆるさない

——アメリカも撤退を——

1990年9月24日

女は戦争への道をゆるさない世田谷集会から

——まず今日の話し合いを提案された岩井さんから。



岩井朋子さん

——このごろ新聞では、まるで憲法改正が当たり前みたいにいわれていますね。昭和史を学んだとき私は戦後生まれは、どうして前の戦争をみんなが阻止しなかったのだろうと考えましたが、今、同じような時に来ている。ここでごんばらなければ大変なことになる、坂を落ちるように恐ろしいことになるのではないかと気がします。マスコミには「偉い人」の声はいっぱいのっているが、女・子どもの声はない、ここで声を出さなければと思いました。

——身近なことでも、日の丸、君が代の問題は既に子どもたちの上にふりかかってきています。二人でも三人でも、何とか声を出さなければいけないと痛切に思うこのごろです。

——イラク問題は私たちには突然に起きてきた感じですが、

が、今まで武器輸出をしておきながら経済制裁をやるという矛盾、アメリカがすぐに軍隊を出すのも、軍需産業が栄えるようにやっているんですね。「子どもの権利条約」を批准せよという動きが地球レベルで行われる一方で、やはりこういうことがやられるんですね。イラクのクウェート

戦略はたしかにひどいけれど、アメリカが軍隊を出した時、みんな何も言わなかったところがおかしいですね。

——イラクがけしからんという声だけ大きくおこっているが、「人質」のことなんか、強大なアメリカに対する弱いイラクとしては、戦術として私でもそうするわ、と思ってしまう。戦争はすべて悪なんだから……。イラクが悪いということだけ言って大騒ぎしている感じがします。



味岡岡子さん

——国連中心の話し合いではうまくいかないのではという声があるけれど、それならただけでうまくいくのか、そうではないと思います。ア

アメリカがすぐさま武力で行ったことに対して、日本では何も批判がされないのはおかしいと思います。国連のレベルで解決すべきだと思う。多国籍軍というのは平和解決のためではなくて、それぞれお国の石油の利権などの事情で動いている。

—— イラン・イラク戦争の時に、アメリカ・ソ連を始め、フランス・イギリスなどが両方の国にすごく武器輸出をしてイラクを強くしてきたのに、今、正義のためとイラクを叩いているのはおかしいと思います。



森美佐子さん

—— 今まで日本に戦争はなかったのに、今、偉い人たちから派兵の話が毎日のように出ています。経済制裁に協力のためというのは軍隊の派遣と同じことだと思っています。日本の今の流れは、まるで海外派兵を「待ってました」というような感じがする。

—— 米下院は在日米軍駐留経費の全額を日本が負担するよう要求し、応じない場合はアメリカ軍を毎年五〇〇〇人ずつ撤退させるといふ決議をしたという。沖縄を始め各地で米軍基地のために多くの悲劇が起きているのだから「よかったわ」と思ったけど、アメリカも膨大な軍事費のせいで財政赤字に苦しんでいるのだし、日米双方のために「どうぞ撤退して」と言いたい。

—— 日本はアメリカに全く従属している。フィリピンはお金をもらって基地を貸しているけれど、日本はお金をあげて基地を提供しているのよね。



宝満正子さん

—— 「正義のために今、日本国としてなすべきことは自衛隊派遣だ」というふうにもっていかうとしていることが、ありありと感じられますね。

—— 正義のための武力なんて私は信用できない、正義の戦争なんてあり得ない。

—— イラクの国連脱退は、かつての日本が国際連盟を脱退した状態と同じです。聖戦といわれて、国民は、何も知らされず戦略戦争に追いこまれたのです。イラクの人たちに、そうさせてはいけないのよね。

—— イラクとクウェートの国境は、よその国が勝手にきめたのだから人さまのものを取りにくいのじゃないというところがあって、この点は日本が中国を攻めたのとは違うところよね。アラブの情勢は知らされていないからよくわからないけれど、これは内輪もめの一種じゃないかしら。先進国が他人の国を勝手に線引きしてイラクとクウェートをつくり、そこに武器を売りつけておいて、そこで採掘ごとがおければ「正義の軍隊」をくり出すというのは、どう

考えてもおかしいのじゃない？

——『週刊ポスト』とかスポーツ新聞にはそういう言い分が出ているわね。

——なにしろ、戦前を思い出すわ。自衛隊派遣などとなつたら、とんでもないことになるわね。

——丸腰で行けばいいと言つたつて、向こうへ行けば武器はいっぱいあるのだから、どんな形にせよ、戦争に参加することになってしまふのよね。免許をとりに自衛隊に入つた若い隊員が、今一番びっくりしているんじゃないかな。

——防衛大の学生にインタビューしているテレビを見たけど、戦争に行く気などないという若者が多かったわね。

——いつでも戦争をしたいと言いつ出すのは、戦争に行かない人たちのよ。犠牲は名もない人、一番弱い者なのよ。この前の戦争でも偉い職業軍人はぬくぬくと生き残つて、特攻隊で死んだのは学徒兵や幼い志願兵ばかり。



近藤悦子さん

——昭和四年、「我等」という雑誌に長谷川如是閑が紹介している『戦争を絶滅させること受け合ひの法律案』というのがあるから読んでみま

しょうか。

一、戦争行為の開始又は宣戦布告の生じたる後十時間

以内に次の処置をとること。即ち左の各項に該当する者を最下級の兵卒として召集し、できるだけ早く最前線に送り、敵の砲下の下に実戦に従わしむべし。

(一) 国家の元首。君主、大統領を問わず。但し男子たること。

(二) 国家の元首の男性の親族にして16才に達せる者。

(三) 総理大臣及び各国务大臣並びに次官。

(四) 国民によつて選出されたる立法院の男子の代議士、但し、戦争に反対の投票をした者を除く。

(五) キリスト教又は他の寺院の僧正、官長、その他の高僧で公然戦争に反対せざりし者。



田代信子さん

——ほんとにこの「法律案」なら戦争は起こらないわね。総理大臣だの国会議員だの、派兵賛成の人たちがみんな人質の身代わりに行くのが一番いい。

——中曽根さんに交渉に行ってもらつたら、というインタビューがあつたけれど、何かおどおどしていたわよ。人質の身代わりに行つたら彼の好きな「男をあげる」こ

とになるのにね。



李玉順さん

いのね。

——ここは商社の人も単身赴任が多いのね。

——イスラム教のこともわからない。パレスチナでは、数百万人が四十年以上も難民として暮らし、百五十万人が二十三年間も軍事占領下で暮らしているという記事を読みました。このように複雑な問題を抱えているから、地域住民の利益を考えた貢献策が望ましいわね。

——女の人も長い間のヴェールを捨てて共同で働いたりしている動きがあるというけれど。

——私が中高生で世界史を習ったころは、植民地独立の時期で国の名前も覚え切れないほどだった。

——きちんと伝えないのはマスコミの責任も大きいわね。

——十億ドルとか四十億ドルとかいう援助を、国会も開かないで勝手に決めるのはおかしいのじゃない？

——国会で話し合うように野党は要求すべきだと思うけれど…。

——民社党は海外派兵賛成とか言っているけれど、国会ではつきりと表明してほしい。

——国連平和協力法とか作って、自衛隊法を変えたりして、憲法には手をつけないで派兵を考えているらしいわね。



川守田美季さん

るし…。

——アメリカに言われて十億ドル、これじゃ足りないと言われて、また三十億ドルというところがおかしいわね。何の政策もないのね。

——フィンランドとかスウェーデンとか、小さい国でも外交政策はきちんとしなきゃいけない。そういうところが日本にないのね。つまり、土地問題と同じで無策。

——日本にはまだ「お上」という感じが残っている。行政の末端に至るまでいばっているでしょう。戦後民主主義は、まだ根づいていないのね。日本は金持ちだというのが、台風が一つくれば川があふれ、崖がくずれ、家が流され、人が何人も死ぬ。社会資源の整備もされないで一体どこか金持ちなのか。

—— 風呂もないアパートから一流ブランドの服を着て出てくるとか、過労死するまで働かされているとか、おかしいことばかり。

—— 鍼治療に来た保母さんに、「これ労災じゃないの？」と言ったら、「こんなことで労災になんかしてもらえないはずないでしょ」と言われた。動けなくなれば駄目だって。

—— 労災適用をまともに認めていたら、いまの労務管理は成り立たなくなるから。

—— 今の危険な情勢について夫と話し合っているけど、企業の立場では石油のためにアメリカが軍を送るのは仕方がないんじゃないかと言っている。

—— アフガニスタンにソ連が出兵したときマスコミは大騒ぎだったのに、アメリカには何も言わないのはおかしいんじゃない？

—— 国内問題でも、マスコミは小選挙区制について何も言わない。大変なことなのに。

—— 考えてみると、私たちは戦後何十年も同じ話ばかりしている。一人ひとりの意識が変わらなければ政治も変わらない。

—— そのためには、それぞれが関わっている場で、自分も周りの人も意識を変えていくようにがんばるしかないのね。

—— 私たちの会は「戦争の加害者にもなってはならない」というところから出発しているのだから、武器を売るな、武力は駄目、ということをお願いしたい。正義の戦争なんてあり得ないと言いたい。

—— イラク問題に関してはアメリカに対して「軍を引きあげなさい」と、平和憲法をもつ日本が言わねばならない立場にあると思う。それはまた、アジアの国々に対する義務ではないでしょうか。

—— 日本は多国籍軍を援助してはいけない。国連に平和的話し合いでイラク問題のイニシアチブをとってもらうことを訴えたいと思います。特に自衛隊派兵など、とんでもない話です。

〈出席者〉

味岡尚子・岩井朋子・川守田美幸・近藤悦子

田代信子・宝満正子・森美佐子・李玉順 ヘアイウエオ順

—— 於カサデ・デ・ラ・ムジカ ——



中東への自衛隊派遣を許さないために

あなたも行動を！

多国籍軍の中東派兵を機に、自衛隊の海外派遣を合法化しようとする動きが始まりました。これは、平和憲法をなしくずしにするものです。私たちは、何としてもこれを阻止しなければなりません。あなたの選挙区の議員と国連平和協力法案の特別委員会のメンバーに、

一人が100人に

電話をかけてよう！

自筆のはがきを出そう！

十月中が勝負です。(法案が通ってからではもう遅い！)

▲国際連合平和協力に関する特別委員会のメンバー

自民党

加藤紘一 高村正彦 浜田卓二郎 山崎拓 西田 司 宮下創平 愛知和男 石井一 奥田幹生

、自見庄三郎 鈴木宗男 近岡理一郎 中村正三郎 野中広務 浜田幸一 牧野隆守 三原朝彦 井出正一

植竹繁雄 古賀誠 杉浦正健 園田博之 中川昭一 中山正暉 鳩山邦夫 林大幹 町村信孝 渡辺省一

公明党 日笠勝之 井上義久 冬柴鐵三 遠藤乙彦 山口那津男

民社党 和田一仁

進民連 檜崎弥之助

衆議院 〒100 千代田区永田1-7-1 ☎581-5111

参議院 〒100 千代田区永田1-7-1 ☎581-3111

各団体アピール

要請書

内閣総理大臣海部俊樹殿

「中東貢献策」に対し、

女たちで行動しませんか

東京都新宿区新宿一の九の六

あごら

多国籍軍の中東派兵を機に、自衛隊の海外派遣を合法化しようとする動きが始まりました。

平和憲法をなしくずしにするものとして、私たちは、強い危機感を抱き、下記の要請書を、海部首相と、各野党党首に届けました。

それを実効あるものにするために、諸団体とネットワークをつくり、国会と国連に、署名を添えて請願したいと思えます。ご賛同の方は、声をかけてください。

「あごら」は、フェミニズムに立ち、

非戦、非暴力、非差別を貫き続けてきたグループとして、政府の「中東貢献策」に深く憂慮し、内閣総理大臣と各野党党首に要請します。

一、自衛隊の海外派兵に強く反対します。

もしも「海外派兵が絶対必要」とお考えなら、すみやかに国会を解散し、可否を国民にただしてください。

「千丈の堤もアリの一穴から」どのような理由をつけようとも、海外派兵は憲法九条を解体するものです。

平和憲法は、アジア二千三百万人の血の上に築かれました。

それを守り抜くことは、日本の責

任です。

一、平和憲法に立つ日本国民として、多国籍軍の派兵に抗議します。

イラクのクウェート侵攻は、許し難いものですが、外交的交渉を重ねることなく、電光石火派兵したことは、「武力による恫喝」にほかなりません。

イラクの撤兵を要求すると同時に、多国籍軍の撤兵を要求、平和的手段による紛争解決を図ることが、平和主義国日本の責任と信じます。

多国籍軍の主軸を担っている諸国は、中近東の地図を恣意的に塗り替え、中近東諸国に武器を供与し、中近東紛争の根因をつくってきた国々です。

経済的にせよそれを支援することには、それに加担することです。武器を生産せず輸出しなかった希有な工業化国、日本は、多国籍軍

に決して与することなく、むしろ、その猛省をうながしてください。

一、世界各国からどのような非難を受けようとも、日本は武力派遣の支援金をおくらず、武力を輸出せず、あらゆる紛争に平和的手段で対応する姿勢を貫いてください。

直接的な武力を派遣しなくても、武力派遣を経済的に支えることは「武力支持」と受けとられます。

しかも「金を出して汗を流さない」との非難を受けます。今は、日本が平和主義を貫き通すことを全世界に表明するまたとないチャンスです。政府が経済的支援を続けるのなら、野党各党は、世界各国に代表団を派遣し、日本国民は、いかなる形でも武力支援を望まないことを表明してください。

一、中東問題で費消する国費の額及び使途は、国会で議決してください。国費の支出は、緊急時とはいえ、

事後承諾ではなく、事前の承認がぜひとも必要です。国会を解散して信を問うてください。

一、もしも、四十億ドルを中東問題に費やすのなら、私たちは、その全額をアジア難民の救済と、出稼ぎ送金に頼らざるを得ないアジア諸国の財政立て直しに使うことを要求します。

一、中東紛争を一日も早く解決して、日本国民および全世界の庶民の生活を安定するために死力を尽くしてください。

すでに日本でも物価高騰が始まりました。中東だけでなく、世界各国の庶民が、石油資本、武器産業の巨利の陰で紛争の余波をうけています。与党、野党を問わず、すべての政治家は、今こそ民生の安定に心を尽くしてください。

以上

「女は戦争への道をゆるさない

世田谷集会」でのアピール

憲法第九条は、日本軍国主義が内外に及ぼした悲惨な過去、流された多くの血に対する深刻な反省に立つて制定されたことを、いま改めて確認し合いたい、と私たちは訴えます。

イラク問題を契機に再び浮上してきた、力によって問題を解決しようという考え方に対して、日本が自らの実践を通じて平和的解決の道を追求するべきときに遭遇していると思うからです。

日本政府は次元の高い平和憲法を盾として、対米追従をやめ、世界の共生を提言して仲介の労をとること、具体的にはアメリカに撤兵を説得する。米軍が撤退すれば、「人質」の問題も解決するでしょう。

日本がアメリカを説得することなどできつこない、理想論だと貶されようと、私たちはいのちの限り訴えます。

世界中の子どもたちに、平和で美しい地球を残すために。

マスコミは大きい力を持っています。かつての戦争協力への反省に立って、ペンは劔よりも強いことを示していただきたい。権力の側につかず、チエック機能を果たし、民衆のために叡智をもって真実を伝えていただきたい。

私どもはこの十年間、さまざまな角度から学び合い、自分自身の生活を問い直し、民主主義を地域に根ざすために仲間を増やす運動を続けてきました。危険な泥沼にするすると引き込まれていくような不安な状況の中で、学び合い、話し合い、再び戦争という誤ちを犯さないために連帯の輪を拡げていきたいと、アピールいたします。

田代信子



要請書

私たち草の実会は、先に、今時中東紛争に関して、政府が平和憲法に基づき積極的外交に努めるよう要請しました。しかし、中東支援と銘うって出された今回の「貢献策」には、深い失望と憂慮を禁じ得ません。

この重大な選択を、政府・自民党での論議のみで進めた国会軽視、民意無視の責任は大きく、さらに、この選択が、終始米国大統領の要請と圧力により左右された結論であったことは、独立国家としての主体性と主権在民の原則をいちじるしく蹂躪するものです。

政府は、国連重視として多国籍軍への支援を打ちだしています。しかし、多国籍軍とは、国連安保理事会の決議以前に、独自の論理で過剰出動した

米国が、主導しており、国連憲章に基づく正規の軍隊ではありません。現在、国連軍結成によるコントロールを拒んでいるのは米国です。したがって、輸送、物資、医療、資金の各支援策は、国連の手続きによらない米国の一方的な指揮管理下に付され、わが国への要求がエスカレートするのは必至です。これは特定国への軍事協力に他ならず、長期泥沼化を辿ることがあれば、政府の責任はこの上もなく重大です。

すでに、沖縄や岩国・佐世保からも米軍が出動し、日本は居ながらにして後方基地の役割を担っており、経済封鎖の域をはるかに超える武装威嚇が、事態の好転を阻んでいます。武力による紛争解決を禁じている平和憲法をもつわが国こそ、身をもって独自の平和努力を示す時です。この機に乗じて、平和憲法をなし崩しにする如何なる動きも、厳に慎まなければなりません。

戦後四十五年、絶えざる「不戦」への努力によって、国際社会での信頼を得てきたことを胆に銘じ、あくまで、政府は平和外交に徹した解決策に専念するよう、重ねて要請します。

一九九〇年九月六日 草の実会
内閣総理大臣 海部俊樹殿

申し入れ書

イラクによるクウェート侵攻、併合の事態について、私たちは憂慮の念をもつて見守ってまいりました。さまざまな経緯があると思いますが、基本的には、いかなる立場の人に対しても人権が侵害されることのない形で、一刻も早く解決されることを期待しております。

しかし、残念ながら、目下の推移には、好転の兆しが窺えず、日本政府の

対応も、はたして平和的解決を図るための手だてを独自に探っているのか疑問です。それどころか、アメリカ政府の求める「貢献」への対応に追われて、力による強引な解決に傾く傾向が見られ、私たちの不安はたかまらばかりです。

私たちは、日本が世界に誇る平和憲法をもっていることを、あらためて日本政府に喚起したいと思えます。「武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」と、たからかに宣言する日本国憲法の第九条を、私たちは世界平和を希求する精神として誇りにし、守り抜きたいと願っています。

平和的手段を追求することによってのみ、事態の長期化と拡大が避けられ、「人質」となっている諸外国人の心身の安全の保障が得られると確信いたします。

「貢献」を口実に、憲法九条をない

がしろにすることは断じて認められませんが、いかなる拡大解釈も、いかなる便宜立法も、この条項を踏みにじることは、日本国憲法のもとにある政治家に許されていません。法改正による自衛隊の海外派兵など論外です。

憲法の精神を逸脱する手段を取ることをなく、世界平和を希求する高い理想をかげ、平和外交の道を探り続けることを、日本国政府に求めます。

一九九〇年九月六日

戦争への道を許さない女たちの連絡会
内閣総理大臣

海部俊樹殿

要請

日々緊迫の度を加えている中東の情勢に、私たちは心を痛めています。イラクのクウェート侵攻は武力による国家主権の侵害であり、国際法上も容認

されるべきことではありません。また多くの外国人を拘束し、対外的「盾」として用いることは人道上も許されるべきではありません。

ところが、日本政府は米国政府の求めに応じて、①中東湾岸諸国にたいする資金援助、②医療協力団の派遣、③非軍事物資を輸送するための航空機、船舶の借り上げ、など総額一〇億ドルの「貢献策」を決めました。

しかし、この「貢献策」は、サウジアラビア等に駐留する米・英軍を中心とする多国籍軍の軍事行動への支援に外ならず、集団的自衛権の行使にもとづいた軍事行動への加担を禁じた日本国憲法に反するものであり、私たちは強く反対します。そして、このような重大な事柄については、国会の審議を尽くすことが不可欠であり、国会の開会を強く求めるものです。

政府・自民党内では、自衛隊法の「改正」による自衛隊員の派遣も検討され

ているということですが、それは、自衛隊の海外派兵、集団的自衛権の行使に道を開き、憲法改悪につながるものであり、私たちは絶対に許すことはできません。

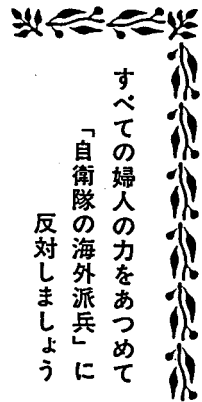
中東問題の解決にあたっては、政府はあくまで、国連中心主義、憲法の厳守、平和的解決の原則にそって努力すべきです。

冷戦構造が終結し、新しい国際秩序が求められているときに、平和憲法をもつ日本こそが、武力行使をやめさせ、平和的解決をはかるために力をつくすべきです。

私たちは、日本政府が、多国籍軍への支援を撤回し、憲法を遵守する立場から平和的解決のためにあらゆる外交手段をもって対処されるよう強く要請します。

一九九〇年九月六日

日本婦人会議 議長 清水澄子
内閣総理大臣 海部俊樹殿



すべての婦人の力をあつめて
「自衛隊の海外派兵」に
反対しましょう

海部政府は 再び戦争の道を

あゆみはじめました

政府は、中東・アラブの問題に関連した国連の決議に「貢献」するという口実で、自衛隊の海外派兵の方針を決め、一〇月中旬の臨時国会で「国連平和協力隊法」を決定しようとしています。これは、「平和協力」の装いで、自衛隊を世界の紛争地域にいつでも派兵するもので、日本が世界に拡張している権益を確保するために戦後はじめて戦争にのりだすものです。

そのため、学校教育では「君が代」「日の丸」を強制し、即位の礼、大嘗祭によって天皇制を強化し、これに反対する斗争に「破壊活動防止法」を適

用するとしています。

すなわち、日本政府はこれまでの「平和国家」の仮面もかなぐり捨て、再び武力による侵略へとふみだし、これに人々を動員しようとしています。

私達は二度と戦争を許しません

私達はかつて戦前・戦中、軍国主義・

天皇制の教育によって、侵略戦争の真実を知らされず「聖戦」と信じて疑わず戦争にかりだされ、戦争を阻止できなかった痛恨の思いから「今度こそは、身体を張っても反対したい」と心から考えています。また、戦争がどんなに婦人や子どもに犠牲を負わせるかを身をもって味わい、二度と許してはならないとの強い思いを持っています。そして、「紛争地域」とされている中東・アラブ、アジア、フィリピンなどの人々

はかつて私達と同じように戦争の犠牲を受け、そのなかから立ち上がり、いま反帝民族解放斗争を發展させていま

す。

私達は、中東・アラブ、アジアなどの人々とも連帯して、海部政府のあらたな戦争参加自衛隊の海外派兵に絶対に反対し、平和で豊かな世の中の実現のための運動と行動を起こします。

もう黙っているときではありません

私達はいま、このまま再び戦争を許すのか、海外派兵に反対して、戦争を断固として許さず、平和で豊かな世の中をつくるのかとわれています。

再び悔いを残さないために、みんなで声を上げましょう！

海部首相への抗議文、署名活動、抗議の集会、学習など何でもできることをはじめましょう。女が本気で動き出したら世の中を動かすことができます。

戦争反対！ 自衛隊の海外派兵反対！ の思いを一つにして、婦人の大きな隊列をつくり、みんなであが

りましょう！

一九九〇年一〇月

日本民主婦人同盟東京本部

東京都目黒区原町一―六―一四

〇三―七―一三―三二六〇

憲法をふまえて、

あくまで平和的対処を

―― 中東問題に関する要請

イラクによる クウェート 侵攻から一ヶ月、いま中東は、一触即発の軍事緊張を高めています。このままでは、ミサイルや化学兵器が飛び交う大変な惨劇も予想され、私たちも、深い憂慮を禁じえません。

すでに国連は、イラクに対して即時撤兵・併合無効を要求して経済制裁を進める一方、米政府の強い要請をうけ入れて、制裁の実効を確保するための限定的な武力行使を認める決議もおこ

ないました。確かにイラクの行為は断じて許されないものです。しかし、「アラブのことはアラブで解決を」という声を無視して、いち早く武力制圧の方針を出した米政府や大国こそつての中東介入が、まったく無条件に「正義の行動」だといえるのでしょうか。そこには明らかに、原油市場や中東での権益・打算をめぐる大国の思惑や、「世界の警察官」を誇示する力の論理が動いていることを見ないわけにはいきません。また、アラブの民衆の間には、イラク支持や反米のうごきが広がっていることも注目すべきで、真の「中東和平」を外から軍事力で実現することなど不可能であるばかりか、それは「第二のベトナム」への道だといわねばなりません。

の役割りに限定されたとはいえ、軍事行動の後方支援にふみきったことは重大で、国会での議論もぬきにこうした憲法の空洞化が強められることを容認することはできません。「国際紛争を解決する手段としての武力行使は永久に放棄する」を明記している憲法をふまえるなら、まず米政府に対して冷静に対処するよう働きかけるなど、武力制圧への安易な協力ではない平和的解決の道を求める「汗」こそかくべきではないでしょうか。

すでにこの間、沖縄や横須賀などの在日米軍基地からの中東出撃が強化され、米政府からの軍事分担金要求もいちだんとエスカレートしています。一方、政府や自民党首脳の中からも、「自衛隊の海外派遣ができないような憲法」への非難がさまざまにうち上げられ、改憲論や自衛隊法の改訂などの動きも勢づいています。こうした動向は、わが国の軍事大国化に厳しい批判と不

信を投げかけているアジアの人びとの目に、どう映っているでしょうか。私たちは、近く国会に上程させるという「国連平和協力法(仮)」が、国際協力の大義名分のもとに、自衛隊の海外派兵の道を強行するものであってはならないと考えています。

中東情勢は、ポスト冷戦時代の新しい国際秩序をどう創り出すかを問う大きな試練となりました。私たちは、今こそわが国の平和憲法の真価が問われていることを痛感し、その立場から、「憲法をふまえて平和的解決をめざす姿勢を明確にして中東問題に対処しよう」重ねて政府に要請いたします。

一九九〇年九月六日

内閣総理大臣

海部俊樹殿

婦人民主クラブ

東京都渋谷区神宮前三―三―一八

〇三(四〇二)三二四四

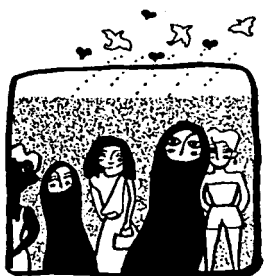
△以上すべて原文のまま▽

157号に緊急AGORAZEIN

「中東——そして私たち」

を掲載します。

イラクへのアビールから帰国した堂本暁子さん、アジア経済研究所の酒井啓子さん、クウェートから帰国した萩原洋子さん、トルコを祖父の国とするアメリカ人、ナフィサ・ミナイさんほか、島田信子（草の実）、加瀬さつき（婦民）、内海愛子（アジアの女たちの会）、吉武輝子（戦争への道を許さない女たちの会）などが「解決」のための行動を求めて熱い議論。ご期待ください!!



〔編集後記〕

▼何か月前にパレスチナの子どもの写真展を観た。

私の娘たちと同じ年頃の、生活を追われる子どもたちの姿に胸が詰まった。今中東問題で問われている日本。何もできないむなしさいっぱい私だったが、日々聞こえてくる反対運動の高まりに、できるかもしれない、やらなければと重かった腰が少し軽くなりつつある。（野）

▼繁華街のネオンは相変わらずきらびやか。テレビの深夜放送も途絶えることはない。中東の問題は私たちの生活と密接につながっているのに、この無関心さはなんだろうか？（前）

▼イラクのクウェート侵攻を機に自衛隊を軍隊として認知させようとする政府と自民党。今、ここで、女たちが声をあげなければ。あごらVは、まずその一報を。（K）

▼中東派兵反対リレーマラソン演説会で署名集めをした。ハチ公前は着飾った若者でいっぱいだが関心を示す人はごくごく少数。青年は理想と正義感に燃えている……というのは、私の独りよがりだったのかしら。（木）

▼つい最近、パレスチナの作家 ガッサン・カナファニーが書いた『太陽の中の男たち』の映画を観た。シリアで制作されたものである。砂漠の太陽はキラキラと熱い。中東危機もこれ以上熱くならなければよいと祈る。（大）